小泉復興大臣政務官記者会見録

(「creative summer camp2015 最終作品発表会」ぶら下がり会見)

(平成27年9月29日(火) 21:52～21:57 於)復興庁)

1. 質疑応答

(問) 新しい東北事業では、いろいろなところで官民連携で東北のPR力を高めようというふうにやっていますけれども、特に若者ということで、若者のPR力に対する期待というか、今回お感じになった点について、ぜひお聞かせください。

(答) 今日、最優秀をとった石巻の歌、あの波及効果はちょっと大きな期待をしていますね。今でもすぐ口ずさめるぐらいの影響力の大きさだし、何しろ、確かに、巻物ってなかったなという、意外な近いところで発見をしっかりと捉えて、それを作品の中に詰め込んでくれましたよね。だから、新しい巻物文化が石巻で本当に始まるんじゃないかなというところを捉えて、なおかつ、誰もが知っている歌を活用して、これをぎゅっと閉じ込めたというところに、若い人の発想の豊かさ、斬新さ、これはね、すばらしいと思いました。だから、役所の仕事って、なかなかこんなに若い人たちを集めることができる企画って生まれてこないんですけど、今回、「新しい東北」という言葉のとおり、新しい、役所の民間とのコラボレーションというものの一つの形を見た気がしましたね。

(問) 震災から4年半経って、審査員の方の中でも、課題がいろいろ変わってきたみたいなお話さされていましたが、被災地が発信力を高めることの意義と、PR力を高めることの意義について、政務官はどのように考えていらっしゃいますか。

(答) さっきも言いましたが、やはり報道量はかなり減ってきました。そして報道してもらえる時期も、例えば、何かの節目、毎年3月11日とか、そういった期間に集中して、それ以外の時期に報じていただけてところが少なくなっている中で、やはりそれは仕方がないことなんですけど、それを嘆くのではなくて、むしろ、今の時代はITもあるし、SNSもあるので、国民誰もがメディアになれる時代ですよ。それを活かして、宣伝力、発信力、これがずば抜けている地域に東北がなれば、それこそまさに新しい東北ですよ。何かそのつながりを、こういった企画を通じて結果として生めればいいなと。広告の力とか宣伝の力って、私は大きいと思います。CMは30秒ですけど、政治家も、長くぶら下がりやっても報じてもらえるのは10秒だと思います。

(問) 復興庁には復興庁チャンネルという映像もあると思うんですけども、いわゆる会議とかそういった部分が中心だと思います。

でも、この地元の今回の映像は別にしても、その地元発信の映像なんかを、そういうところで、せっかく伝えようとする素材があるのだから、ということもあるんですけども、

(答) それもあるかもしれないですね。今、地方創生では、地方創生動画を募集していて、まさにこれに通ずるような取組をやっているんです。なので、その地方創生動画の募集のほうに被災地からも上がってきている部分はあるかもしれないけど、復興庁でもこういったことというのは、今後考える可能性はあるなど。だから、すごくこれはいい企画で、この「新しい東北」に力を入れてくれた復興庁の部局も含めて、こういったことをどんどんやっていったほうがいいなど。新しいアプローチを今日は少し感じましたね。

(問) 話が若干変わるんですけども、復興の政務官としてちょうど2年になるかと思うんですけども、近々、内閣改造も予定されていますけれども、何か御自身としてやりたい仕事というのは、今後どのようなキャリアプランを描いていらっしゃるでしょうか。

(答) この復興に関しては、私は野党の時代から、毎月ずっと行き続けるということは必ずやってきて、それは、これから立場がどんな立場になっても変わることはありません。最後まで復興をやり遂げると、それはこの立場からやるんだというものではないので、立場は関係なく復興はやると。

(問) 特に、例えば、どういった立場で今後やりたいという特定の希望といたしますか。

(答) 自分の中では、いろいろな分野でまだまだ修行、勉強、足りないところはいっぱいありますから、どんな立場になっても、その立場で全力を尽くして、日本一のぞうきんがけをしようと、そういう思いです。

(以 上)